

情報処理学会東北支部 平成26年度 支部報告会

日時 : 平成26年6月11日(水) 12:30 ~ 14:00

場所 : 東北大学 工学部 電子情報システム・応物系 情報新棟 451,453号室

住所 : 〒980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉6-6-05

次第

- I 開会
- II 支部長挨拶
- III 報告
 - (表彰)
 - 1. 平成25年度 東北支部学生奨励賞の選考結果報告 資料1
 - 2. 平成25年度 東北支部奨励賞の選考結果報告 資料2
 - 3. 第9回 東北支部野口研究奨励賞の選考結果報告 資料3
 - 4. 平成25年度 東北支部奨励賞 贈呈
 - 5. 第9回 東北支部野口研究奨励賞 贈呈
 - (報告事項)
 - 1. 平成25年度活動報告について 資料4
 - 2. 平成25年度決算について 資料5
 - 3. 平成25年度役員改選について 資料6, 7, 8
 - 4. 平成26年度事業計画について 資料9
 - 5. 平成26年度予算について 資料10
 - 6. 支部表彰規定改定について 資料11
 - 7. その他
 - 1. 平成26年度電気関係学会東北支部連合大会について 資料12
 - (学会概況報告)
 - 1. 学会概況報告 資料13
- IV 閉会

情報処理学会東北支部 平成25年度 学生奨励賞 受賞者

趣旨 情報処理分野を学ぶ東北地区の学生が、より一層、情報処理分野の勉学に勤しむように奨励する。

対象 情報関連学科を持つ大学または高専の卒業年度生で、成績優秀な学生。

(学生奨励賞に関する要項より要約・抜粋)

情報関連学科を持つ主要大学等 15 校に成績優秀者の推薦を依頼したところ、下記 14 名の推薦があった。選考委員会においてメール審議を行い、推薦のあった全ての学生に学生奨励賞を授与することと決定した。

氏名	所属
小田桐 舞央	弘前大学理工学部電子情報工学科
武田 悠	秋田大学工学資源学部情報工学科
大沼 和嗣	秋田県立大学システム科学技術学部電子情報システム学科
大森 隆文	岩手大学工学部電気電子・情報システム工学科
今淵 貴志	岩手県立大学ソフトウェア情報学部
齋藤 翼	山形大学工学部情報科学科
中村 紘	東北大学工学部 情報知能システム総合学科
今野 由也	東北工業大学 工学部情報通信工学科
鎗水 翔也	東北学院大学工学部電気情報工学科
齋藤 郁	仙台高等専門学校 電気工学科
鈴木 恵利	会津大学 コンピュータ理工学部 コンピュータ理工学科
鈴木 貴久	日本大学工学部情報工学科
船山 智広	福島大学 理工学群 共生システム理工学類
阿達 拓也	鶴岡工業高等専門学校 制御情報工学科

情報処理学会東北支部 平成25年度 支部奨励賞 受賞者一覧

趣旨 情報処理に関する学問，技術の奨励のため，有為と認められる新進の科学者または技術者に贈呈する。

対象 支部連合大会および研究会に発表した者で，大学の学部卒業後10年未満，かつ過去に本奨励賞や類似の賞を受賞していない者。

(表彰規定より要約・抜粋)

平成25年8月22日，23日に開催された電気関係学会東北支部連合大会と，平成25年4月～平成26年3月に開催された研究会（計7回）のそれぞれにおいて，座長より合計12件（連合大会より10件，研究会より2件）の推薦があった。

それぞれの推薦論文について事前に有識者による査読を行い，その結果などをもとに平成26年4月30日に開催された選考委員会で以下の受賞候補者を決定した。

東北支部連合大会

- 上野 嶺（東北大学）
「誤り訂正符号化回路の形式的設計とその評価」
- 鷲尾 槇也（会津大学）
「聴覚復号型秘密分散法の構成法及びその安全性について」

研究会

- 横山 和成（秋田県大）
「自律移動ロボットの環境地図構築における歪み補正手法」
- Yuya Kaneda（会津大）
「Inducing Compact and High Performance Neural Networks Based on Decision Boundary Making」

情報処理学会東北支部 第9回野口研究奨励賞 受賞候補者

趣旨 優秀な学術論文を出版した東北支部会員の若手研究者に対して賞を授与し、より一層の情報処理分野に関する研究開発を奨励する。

対象 過去5年程度以内において、学術雑誌・国際会議予稿集に掲載された論文の主要な著者で、35歳以下の若手研究者。

(野口研究奨励賞の要項より要約・抜粋)

第9回 野口研究奨励賞に4件の応募があり、平成26年4月30日に開催された選考委員会で慎重に審議した結果、以下の1名を受賞候補者とすることを決定した。

受賞候補者 林 優一（東北大学大学院情報科学研究科・准教授）

対象論文 Efficient Evaluation of EM Radiation Associated With Information Leakage From Cryptographic Devices

著者 Yu-ichi Hayashi, Naofumi Homma, Takaaki Mizuki, Haruki Shimada, Takafumi Aoki, Hideaki Sone, Laurent Sauvage, and Jean-Luc Danger

出典 IEEE TRANSACTIONS ON ELECTROMAGNETIC COMPATIBILITY, VOL. 55, NO. 3, JUNE 2013

情報処理学会東北支部 平成25年度活動報告

1 支部報告会

日程 : 平成25年5月29日(水) 12:30~14:00

会場 : 東北大学工学部 電子情報システム・応物系 2号館 103会議室

2 役員会等

2.1 第1回 幹事会

日時 : 平成26年4月30日(水) 12:00~14:30

会場 : 東北大学サイバーサイエンスセンター 5階 大会議室

- 議題 :
1. 平成26年度支部役員改選について
 2. 平成25年度支部奨励賞, 支部学生奨励賞,
第9回 野口研究奨励賞について
 3. 平成25年度活動報告について
 4. 平成26年度活動計画について
 5. 平成25年度決算について
 6. 平成26年度予算について
 7. 支部からの推薦論文について
 9. 学生会員無料トライアルについて
 10. その他

2.2 第1回 運営委員会

- 日時 : 平成26年5月7日(水) 16:00~17:00
会場 : 東北大学サイバーサイエンスセンター5階 大会議室
議題 :
- 1 支部役員改選結果報告
 - 2 支部長会議, 役員検討会報告
 - 3 支部学生奨励賞の受賞者の報告
 - 4 支部奨励賞の受賞者の決定について
 - 5 第9回 野口研究奨励賞の受賞者の決定について
 - 6 平成25年度活動報告について
 - 7 平成26年度活動計画について
 - 8 平成25年度決算について
 - 9 平成26年度予算について
 - 10 支部からの推薦論文について
 - 11 平成25年度支部総会(支部報告会)について
 - 12 平成25年度電気関係学会東北支部連合大会について
 - 13 その他

3 事業計画に基づく事業(行事、表彰等)

3.1 電気関係学会東北支部連合大会

- 日程 : 平成25年8月22日(木), 23日(金)
会場 : 会津大学
一般講演 : 293件
参加者数 : 述べ600名
特別講演 :
- 日時 : 平成25年8月22日(木) 16:30~17:30
場所 : 会津大学 講義棟大講義室
講師 : 宗像 精氏(会津藩校 日新館 館長)
演題 : いまなぜ「ならぬことはならぬ」か

3.2 研究講演会

今年度は3回開催した。

- 第366回研究講演会
日時 : 平成25年5月29日(水) 14:40~16:10
会場 : 東北大学工学部電子情報システム・応物系101講義室
講師 : 門岡 良昌氏(富士通株式会社次世代テクニカルコンピューティング
開発本部 アプリケーション開発統括部 統括部長)
演題 : スーパーコンピュータが拓く未来
参加者 : 200名

- 第 367 回研究講演会
 - 日程 : 平成 25 年 10 月 10 日 (木) 16:10~17:40
 - 会場 : 山形大学工学部 4 号館 213 教室
 - 講演者 : 黒澤 兵夫 技術士 (総合技術監理・情報工学)
公益社団法人日本技術士会情報工学部会副部会長
T A K E 国際技術士研究所代表
 - 講演題目 : 技術者、技術士及び技術士制度について
 - 参加者数 : 20 名
- 第 368 回研究講演会
 - 日程 : 平成 26 年 1 月 22 日 (水) 16:00~18:00
 - 会場 : 岩手県立大学 ソフトウェア情報学部 A 棟談話室
 - 講演者 : 品田誠司 (仙台市経済局)
 - 講演題目 : ソフト系 IT 分野における産学連携の理論と大学の実践
 - 参加者数 : 19 名

3.3 研究会

今年度は 7 回開催した。

- 平成 25 度 第 1 回研究会
 - 日程 : 平成 25 年 9 月 24 日 (火) 10:00~14:00
 - 会場 : 弘前大学理工学部 8 番講義室
 - 発表件数 : 11 件
 - 参加者数 : 59 名
- 平成 25 年度 第 2 回研究会
 - 日程 : 平成 25 年 12 月 2 日 (月) 8:50~15:45
 - 会場 : 秋田大学工学資源学部 5 号館 (情報工学科) 101
 - 発表件数 : 13 件
 - 参加者数 : 68 名
- 平成 25 年度 第 3 回研究会
 - 日程 : 平成 25 年 12 月 10 日 (火) 9:45~14:30
 - 会場 : 八戸工業大学 システム情報工学専門棟 I208 教室
 - 発表件数 : 10 件
 - 参加者数 : 45 名
- 平成 25 年度 第 4 回研究会
 - 日程 : 平成 25 年 12 月 21 日 (土) 9:45~16:30
 - 会場 : 岩手大学工学部 3 号館 (電気電子工学コース棟) 3 階 329 室
 - 発表件数 : 15 件
 - 参加者数 : 26 名

- 平成 25 年度 第 5 回研究会
 - 日程 : 平成 26 年 1 月 31 日 (金) 12:00~17:40
 - 会場 : 日本大学工学部 54 号館 5411 教室・5412 教室
 - 発表件数 : 23 件
 - 参加者数 : 38 名
- 平成 25 年度 第 6 回研究会
 - 日程 : 平成 26 年 2 月 13 日 (木) 9:20~16:20
 - 会場 : 東北学院大学 泉キャンパス 2 号館 2 階 229 教室
 - 発表件数 : 24 件
 - 参加者数 : 81 名
- 平成 25 年度 第 7 回研究会
 - 日程 : 平成 26 年 3 月 14 日 (木) 9:30~16:25
 - 会場 : 山形大学工学部 4-111, 112, 115 講義室
 - 発表件数 : 33 件
 - 参加者数 : 60 名

3.4 表彰

3.4.1 支部奨励賞

4 名が受賞。

3.4.2 支部学生奨励賞

以下の 14 名が受賞した。

氏名	所属
小田桐 舞央	弘前大学理工学部電子情報工学科
武田 悠	秋田大学工学資源学部情報工学科
大沼 和嗣	秋田県立大学システム科学技術学部電子情報システム学科
大森 隆文	岩手大学工学部電気電子・情報システム工学科
今渕 貴志	岩手県立大学ソフトウェア情報学部
齋藤 翼	山形大学工学部情報科学科
中村 紘	東北大学工学部 情報知能システム総合学科
今野 由也	東北工業大学 工学部情報通信工学科
鎗水 翔也	東北学院大学工学部電気情報工学科
齋藤 郁	仙台高等専門学校 電気工学科
鈴木 恵利	会津大学 コンピュータ理工学部 コンピュータ理工学科
鈴木 貴久	日本大学工学部情報工学科
船山 智広	福島大学 理工学群 共生システム理工学類
阿達 拓也	鶴岡工業高等専門学校 制御情報工学科

3.4.3 野口研究奨励賞

1名が受賞。

3.5 支部だよりの発行

第 231 号および第 232 号を発行。

4 その他特記事項等

4.1 後援

- 子ども科学キャンパス
日時 : 平成 25 年 7 月 30 日～31 日, 10 月 15 日～16 日
場所 : 東北大学創造工学センター「発明工房」
主催 : 東北大学, 仙台市教育委員会
- たのしいサイエンス・サマースクール
日時 : 平成 25 年 8 月 6 日～8 日
場所 : 東北大学創造工学センター「発明工房」
主催 : たのしい科学企画委員会
- 平成 26 年東北地区若手研究者研究発表会
日時 : 平成 26 年 2 月 28 日(金)
場所 : 東北工業大学 八木山キャンパス 9・10 号館
主催 : 東北地区若手研究者研究発表会
「音・光・電波・エネルギー・システムとその応用」

4.2 協賛

- 東北大学電気通信研究所一般公開 2013
日時 : 平成 25 年 10 月 12 日～13 日
場所 : 東北大学 電気通信研究所
主催 : 東北大学 電気通信研究所
- 中学生のためのコンピュータ・グラフィクス講座
日時 : 平成 25 年 12 月 25 日, 26 日
場所 : 東北大学サイバーサイエンスセンター 本館
主催 : 東北大学 サイバーサイエンスセンター

■収入

	予算	決算	予算 - 決算
本部からの繰入相当額	1,788,000	1,877,000	-89,000
支部交付金相当額	1,788,000	1,877,000	-89,000
記念事業支援金相当額	0	0	0
事業収入	3,632,050	3,752,636	-120,586
支部大会	0	0	0
講演会	0	0	0
研究会	0	0	0
連合大会	3632050	3752636	-120,586
補助金収入	50,000	50,000	0
野口正一氏からの補助・助成	50,000	50,000	0
雑収入(利息等)	1,000	28	972
当期収入合計(A)	5,471,050	5,679,664	-208,614

■支出

	予算	決算	予算 - 決算
事業費	5,062,050	4,793,771	268,279
講演会	300,000	52,240	247,760
研究会	320,000	210,650	109,350
支部表彰	350,000	321,245	28,755
連合大会(分担金)	310,000	297,000	13,000
セミナー支援	150,000	160,000	-10,000
連合大会	3632050	3752636	-120,586
管理費	500,000	272,336	227,664
評議員会・幹事会	120,000	148,660	-28,660
総会	40,000	120,000	-80,000
事務委託会社への委託費	0	0	0
ホームページサーバ使用料	0	0	0
広報・アルバイト	330,000	0	330,000
雑費	10,000	3,676	6,324
予備費等(任意)	0	0	0
当期支出合計(C)	5,562,050	5,066,107	495,943

■収支

当期収支差額(A-C)	-91,000	613,557	-704,557
-------------	---------	---------	----------

平成25年度 情報処理学会東北支部 運営委員 名簿

2013.4.14 現在

役職		氏名	前任者	所属	備考
支部長		小林 広明	木下 哲男	東北大学サイバーサイエンスセンター	
庶務幹事	新	伊藤 輝樹	関口 理恵	富士通(株)東北支社	
		滝沢 寛之	菅沼 拓夫	東北大学大学院情報科学研究科	
会計幹事		瀬沼 宏之	山本 敏孝	日本電気(株)東北支社	
	新	青木 輝勝	佐野健太郎	東北大学大学院情報科学研究科	
広報幹事	新	庄司 貞雄	再任	(株)日立ソリューションズ東日本	
		岡崎 直観	滝沢 寛之	東北大学大学院情報科学研究科	
支部委員		木下 哲男	亀山 充隆	東北大学電気通信研究所	前支部長枠
		菅沼 拓夫	福士 将	東北大学サイバーサイエンスセンター	前庶務幹事枠
	新	佐野健太郎	住井 英二郎	東北大学大学院情報科学研究科	前会計幹事枠
	新	関口 理恵		NECソフトウェア東北	前庶務幹事枠
		菊地 正衡		(株)NTTデータ東北	
		斎藤 稔	再任	弘前大学大学院理工学研究科電子情報システム工学専攻	
	新	山口 広行	再任	八戸工業大学システム情報工学科	
		景山 陽一	再任	秋田大学大学院工学資源学研究科情報工学専攻	
		猿田 和樹	再任	秋田県立大学システム科学技術学部電子情報システム学科	
	新	平山 貴司	再任	岩手大学工学部電気電子・情報システム工学科	
		布川 博士	再任	岩手県立大学ソフトウェア情報学部	
		横山 晶一	平中 幸雄	山形大学大学院理工学研究科	
	新	水木 敬明	再任	東北大学サイバーサイエンスセンター	
		鈴木 健一	再任	東北工業大学工学部情報通信工学科	
		岩本 正敏	再任	東北学院大学工学部	
	新	速水 健一	再任	仙台高等専門学校情報電子システム工学専攻	
		成瀬 継太郎	再任	会津大学コンピュータ理工学部	
		山本 哲男	岩井 俊哉	日本大学工学部情報工学科	
		阿部 伸也	只野 徹	(株)富士通システムズ・イースト 東北支社	
		富樫 敦	再任	宮城大学事業構想学部デザイン情報学科	

平成26年度 情報処理学会東北支部 運営委員 名簿

2014.4.24 現在

役職		氏名	前任者	所属	備考
支部長	新	大堀 淳	小林 広明	東北大学電気通信研究所	
庶務幹事		伊藤 輝樹	関口 理恵	富士通(株)東北支社	
	新	北形 元	滝沢 寛之	東北大学電気通信研究所	
会計幹事	新	瀬沼 宏之	再任	日本電気(株)東北支社	
		青木 輝勝	佐野健太郎	東北大学未来科学技術共同研究センター	
広報幹事		庄司 貞雄	再任	(株)日立ソリューションズ東日本	
	新	鈴木 健一	岡崎 直観	東北工業大学工学部情報通信工学科	
支部委員	新	小林 広明	木下 哲男	東北大学サイバーサイエンスセンター	前支部長枠
	新	滝沢 寛之	菅沼 拓夫	東北大学大学院情報科学研究科	前庶務幹事枠
		佐野健太郎	住井 英二郎	東北大学大学院情報科学研究科	前会計幹事枠
		関口 理恵		NECソリューションイノベータ株式会社	前庶務幹事枠
	新	伊藤 政彦	菊地 正衡	(株)NTTデータ東北	
	新	長瀬 智行	斎藤 稔	弘前大学大学院理工学研究科電子情報システム工学専攻	
		山口 広行	再任	八戸工業大学システム情報工学科	
	新	景山 陽一	再任	秋田大学大学院工学資源学研究科情報工学専攻	
	新	猿田 和樹	再任	秋田県立大学システム科学技術学部電子情報システム学科	
		平山 貴司	再任	岩手大学工学部電気電子・情報システム工学科	
	新	布川 博士	再任	岩手県立大学ソフトウェア情報学部	
	新	横山 晶一	再任	山形大学大学院理工学研究科	
		水木 敬明	再任	東北大学サイバーサイエンスセンター	
	新	鈴木 健一	再任	東北工業大学工学部情報通信工学科	広報幹事兼任
	新	岩谷 幸雄	岩本 正敏	東北学院大学工学部	
		速水 健一	再任	仙台高等専門学校情報電子システム工学専攻	
	新	奥山 祐市	成瀬 継太郎	会津大学コンピュータ理工学部	
	新	大山 勝徳	山本 哲男	日本大学工学部情報工学科	
	新	佐藤 恭史	阿部 伸也	(株)富士通システムズ・イースト 東北支社	
	新	富樫 敦	再任	宮城大学事業構想学部デザイン情報学科	

平成26年度活動計画

1 支部報告会(旧支部総会)

日程 : 平成26年6月11日(水) 12:30~14:00

会場 : 東北大学工学部電子情報システム・応物系 情報新棟 451,453号室

2 委員会等

運営委員会 : 1~2回程度開催予定

幹事会 : 1~2回程度開催予定

3 各種事業(行事、表彰等)

電気関係学会東北支部連合大会 : 8月21日~22日開催予定

研究講演会 : 6回程度開催予定

研究会 : 8回程度開催予定

支部奨励賞 : 5名程度表彰予定

支部学生奨励賞 : 10名程度表彰予定

支部野口研究奨励賞 : 1名程度表彰予定

後援 : 子ども科学キャンパス

たのしいサイエンスサマースクール

協賛 : 中学生のためのコンピュータ・グラフィクス講座

■収入

収入	2013年度		2014年度
	予算	決算	予算
本部からの繰入相当額	1,788,000	1,877,000	1,807,000
支部交付金相当額	1,788,000	1,877,000	1,807,000
記念事業支援金相当額	0	0	0
事業収入	3,632,050	3,752,636	0
支部大会	0	0	0
講演会	0	0	0
研究会	0	0	0
連合大会	3632050	3752636	0
補助金収入	50,000	50,000	50,000
野口正一氏からの補助・助成	50,000	50,000	50,000
雑収入(利息等)	1,000	28	30
当期収入合計(A)	5,471,050	5,679,664	1,857,030

■支出

支出	2013年度		2014年度
	予算	決算	予算
事業費	5,062,050	4,793,771	1,320,000
講演会	300,000	52,240	250,000
研究会	320,000	210,650	300,000
支部表彰	350,000	321,245	350,000
連合大会(分担金)	310,000	297,000	310,000
セミナー支援	150,000	160,000	110,000
連合大会	3632050	3752636	0
管理費	500,000	272,336	537,030
評議員会・幹事会	120,000	148,660	150,000
総会	40,000	120,000	120,000
事務委託会社への委託費	0	0	0
ホームページサーバ使用料	0	0	0
広報・アルバイト	330,000	0	260,000
雑費	10,000	3,676	7,030
予備費等(任意)	0	0	0
当期支出合計(C)	5,562,050	5,066,107	1,857,030

■収支

当期収支差額(A-C)	-91,000	613,557	0
-------------	---------	---------	---

東北支部規定 01 号
平成 264年 5 月 71日改正施行

情報処理学会東北支部表彰規定

第1条 支部規約第3条(5)項に基づく関係事業として、業績ある者の表彰は、この規定により行う。

第2条 表彰の種類は、次のとおりとする。

- 奨励賞
- その他、支部で特に認めた賞

(奨励賞)

第3条 奨励賞は、情報処理に関する学問、技術の奨励のため、有為と認められる新進の科学者または技術者に贈呈する。

第4条 奨励賞を受ける者は、支部主催の電気関係学会東北支部連合大会（以下、支部連合大会と呼ぶ）および研究会に発表した者で、次の各号に該当するものから選考する。

- 原則として本学会東北支部会員であること。（手続き中のものを含む）
- 講演の時期において大学の学部卒業後10年未満の者またはこれと同等と認められる者であること。
- 講演者として登録し、かつ講演を全て行った者であること。
- 本奨励賞および類似の学会賞を受けたことのない者であること。
- 対象となる発表は、表彰の時期の前年4月から当該年の3月までに行われたものとする。

第5条 第4条の選考は、該当支部連合大会および研究会終了後速やかに行う。

第6条 奨励賞は、原則として支部連合大会から3編以内、研究会から2編以内とする。

第7条 奨励賞は賞状および賞金とする。賞金は、1名につき 20,000 円とする。

(選考委員会)

第8条 選考委員長は原則として支部長が当たる。

第9条 選考委員会の委員は、委員長が支部運営委員役員を含めた正会員の中から若干名任命する。

(表彰)

第10条 表彰の受領者は、選考委員長の報告に基づき支部運営委員役員会で決定する。

第11条 支部長は、選考委員会の推薦により、支部報告会総会において支部奨励賞を贈呈する。

(雑則)

第12条 この規定に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

付則

この規定は、平成3年11月1日から施行する。

この規定は、平成9年4月23日から改正施行する。

この規定は、平成24年5月1日から改正施行する。

この規定は、平成26年5月7日から改正施行する。

情報処理学会東北支部学生奨励賞に関する要項

1. 目的

この要項は、情報処理学会東北支部表彰規定第2条(2)項に基づき実施する、「情報処理学会東北支部学生奨励賞」の表彰に関わる事項について定めるものとする。

2. 趣旨

東北地方の情報処理分野を教える主要大学と主要高専の卒業生の成績優秀者各1名に対し、「学生奨励賞」を授与し、情報処理分野を学ぶ東北地区の学生が、より一層、情報処理分野の勉学に勤しむように奨励するものである。

3. 対象

表彰の対象者は、次のとおりとする。

(1)情報関連の教育・研究活動を行っている学科(以下、情報関連学科)を持つ大学または高専の卒業年度生で、成績優秀な学生。

(2)大学にあつては、修士課程への進学予定者であること。高専にあつては、専攻科への進学、他大学への編入学、他大学院の修士課程への進学予定者であること。

(3)情報処理学会学生員、もしくは入会を希望しているものであること。

(4)原則として、電子情報通信学会東北支部における同奨励賞の候補者は対象外とする。

4. 選考

(1)本奨励賞に賛同する大学・高専の情報関連学科は、成績優秀で意欲的な学生1名を推薦する。推薦の基準は各学科に一任する。

(2)支部長が支部運営委員役員から任命する「学生奨励賞選考委員会」を設置し、

支部長が委員長となり、受賞者の選考を行う。

(3)受賞者は、原則として毎年度1015名程度とする。

5. 表彰

受賞者には、賞状と一年間の学生会費分相当の賞金を授与する。(ただし、受賞学生が非会員の場合には、必ず学生会員として入会すること。)さらに、図書カード5,000円分を授与する。

6. 雑則

本要項の改廃は、支部運営委員役員会の議決により行う。

以上

平成 20 年 4 月 18 日 支部役員会制定
平成 26 年 5 月 7 日 支部運営委員改正

情報処理学会東北支部野口研究奨励賞 に関する要項

1. 目的

この要項は、情報処理学会東北支部表彰規定第2条(2)項に基づき実施する、「情報処理学会東北支部野口研究奨励賞」の表彰に関わる事項について定めるものとする。

2. 趣旨

我が国を代表する情報処理分野のパイオニアであり、東北地方の当分野の発展に多大に貢献された野口正一先生(東北支部第7代支部長, 本会第18代会長)から寄贈された資金により**設立された本賞は**, 優秀な学術論文を出版した東北支部会員の若手研究者**に対して野口研究奨励賞を授与しを表彰し**, より一層の情報処理分野に関する研究開発を奨励するものである。

3. 対象

表彰の対象者は、次のとおりとする。

(1)本学会東北支部会員(正会員または学生会員, 手続き中のものを含む)であること。

(2)過去5年程度以内において、情報処理分野に関連する学術雑誌・国際会議予稿集に掲載された論文の主要な著者であること。ただし、第一著者であるかどうかは問わない。

(3)応募時において35歳以下の若手研究者であること。

(4)受賞者以外の共著者は表彰の対象としない。

4. 応募

応募方法は、次に定めるところによる。

(1) 応募者は対象論文および推薦文(あるいは自薦文)を応募用紙 とともに庶務幹事宛てに送付する。

(2) 推薦文(自薦文)のフォーマットは任意とする。

(3) 対象論文の他に参考となる論文がある場合、2編以内を添付することができる。

5. 選考

受賞者の選考方法は、次に定めるところによる。

(1) 支部長が支部運営委員役員から任命する「野口研究奨励賞選考委員会」を設置し、支部長が委員長となり、受賞者の選考を行う。

(2) 選考委員長の報告に基づき支部役員会運営委員会で決定する。

(3) 受賞者は、原則として毎年度につき1名とする。

6. 表彰

受賞者には、賞状、賞牌および賞金を支部報告会総会において授与する。賞金は、1名につき30,000円とする。

7. 期間

~~原則として、この要項が施行されてから5年間は、本表彰を実施する。~~

87. 雑則

本要項の改廃は、支部役員会運営委員会の議決により行う。

以上

情報処理学会東北支部運営規約

(設置)

第1条 情報処理学会定款第52条により、東北地域（青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県）に東北支部を置く。

(目的・事業)

第2条 東北支部（以下「支部」という）は、東北地域に在住または勤務する会員（以下「東北支部会員」という）の相互協力により、本会の目的達成のため、定款第4条に掲げる範囲において必要な事業を行う。

(支部の運営組織・構成)

第3条 支部に、次の東北支部運営委員（以下「支部運営委員」）を置く。

(1) 支部長：1名 (2) 支部幹事：6名 (3) 支部委員：若干名

2. 支部長および支部幹事は東北支部正会員の内から互選し、理事会の承認を得るものとする。支部委員は、主として東北支部正会員および賛助会員の内から理事会の承認を得て支部長が委嘱する。支部長の任期は2年とする。支部幹事の任期は2年とし、毎年約半数を改選する。ただし、再任を妨げない。支部委員の任期は2年とし、再任を妨げない。支部運営委員に欠員が生じた場合は、支部幹事会で後任を選任することができる。ただし、その任期は前任者の残余の期間とする。
3. 支部長は、支部を代表し、統括する。また、必要の都度、支部運営委員で組織する東北支部運営委員会（以下「支部運営委員会」）、支部長および支部幹事で組織する幹事会を開催し、支部の円滑な運営業務が行えるよう、運営に関して必要な事項を審議する。
4. 支部幹事および支部委員は、支部長を補佐し、支部の業務を遂行する。

(支部の運営)

第4条 支部の運営は、理事会で承認された年度計画および予算により行う。

2. 支部運営委員会は、毎年指定された時期までに翌年度の事業計画案、予算案および事業報告を作成し、理事会に提出するものとする。
3. 支部運営委員会は、毎年5月に東北支部報告会を開催し、東北支部会員に対して支部の活動状況（諸事業の報告・計画、収支の状況、支部運営委員の構成等）を報告するものとする。

(雑 則)

第5条 支部の業務を処理するため、事務局を設け、事務局に事務職員、その他必要な職員をおくことができる。

第6条 本規約に定めるもののほか、支部の運営に関する必要な事項は別に定める。

(附 則)

第7条 本規約は、理事会決議の日から発効し、2012年4月1日から施行する。

第8条 本規約の改廃は理事会の決議により行う。

第9条 本規約の施行により、従来の「東北支部規約」は廃止する。

2. 経過措置として、2012年3月31日現在「東北支部規約」に規定される「支部評議員」および「支部総会」の呼称は、運営に支障のない範囲で2012年度に限り利用可能とする。

(支部の設置・廃止)

第22条 支部の設置または廃止は、理事会の決議により行う。

(支部の事業)

第23条 支部は、その地域に在住する会員の相互協力によって、本会の目的達成のために必要な事業を行う。

(支部の地域)

第24条 支部の地域は、次の通りとする。

(※掲載略)

(支部運営規約)

第25条 支部は、次の事項を含む支部運営規約を理事会に提案し、承認を得なければならない。

- | | | |
|--------|----------------------------|--------|
| (1) 名称 | (2) 地域と所属する都道府県名 (前24条に同じ) | |
| (3) 事業 | (4) 運営組織・構成 | (5) 運営 |

(支部の運営組織・構成)

第26条 支部には次の支部運営委員を置く。支部運営委員の選出方法および任期は、支部運営規約に別に定める。

- | | | |
|------------|--------------|--------------|
| (1) 支部長：1名 | (2) 支部幹事：若干名 | (3) 支部委員：若干名 |
|------------|--------------|--------------|
2. 支部長は、必要の都度、支部運営委員会を開催し、支部の円滑な運営業務を統括する。
 3. 支部幹事および支部委員は、支部長を補佐し、支部の業務を遂行する。

(支部の経費)

第27条 支部の経費は、支部への予算配分額および支部において取得した資産により支弁するものとする。

2. 支部への予算配分額の算定方法は別に定める。

(支部の事業計画および報告)

第28条 支部は、毎年指定された時期までに翌年度の事業計画案、予算案および当年度の事業報告を、理事会に提出しなければならない。

(支部長会議) 第29条 支部長会議は、会長が適宜招集するものとする。

附則

3. 第25条、26条、28条の改訂は、理事会決議の日から発効し、2012年4月1日から施行する。

平成26年度 電気関係学会東北支部連合大会 実施計画

1 実施計画の概要

- 主催学会 : 電気学会, 電子情報通信学会, 照明学会, 日本音響学会
映像情報メディア学会, 情報処理学会, 電気設備学会 (各東北支部)
IEEE Sendai Section
- 幹事学会 : 電気学会東北支部
- 大会期日 : 平成26年8月21日(木)～22日(金)
- 大会会場 : 山形大学工学部
(〒992-8510 山形県米沢市城南4-3-16)

2 大会日程

日程	月日	内容		
第1日目	8月21日(木)	午前	一般講演	展示会
		午後	一般講演 特別講演 (夜:懇親会)	
第2日目	8月22日(金)	午前	一般講演	展示会
		午後	一般講演	

3 一般講演

- 日時 : 8月21日(木) 9:00～15:00
8月22日(金) 9:00～17:00
- 場所 : 山形大学工学部4.5号館
- 講演内容 : 各専門分野で最近行った研究の発表, 各専門分野で最近行った工事報告, 現場実験報告, 新製品の紹介等

4 特別講演

- 日時 : 8月21日(木) 15:30～17:00
- 場所 : 山形大学工学部中示範A教室
- 講師 : 阿部哲人氏(上杉博物館主任学芸員)
- 演題 : 「上杉鷹山の思想と治世」

5 懇親会

日時 : 8月21日(木) 17:30 ~ 19:30 (予定)
場所 : 東京第一ホテル米沢 (〒992-0045 米沢市中央1-13-3)
会費 : 一般:5000円, 学生:3000円, 実行委員:3000円(予定)

6 展示会(製品カタログ展示)

場所 : 山形大学工学部内(未定)

7 現地担当実行委員

現地実行委員長 : 廣瀬文彦
(大会副委員長)
現地実行委員 (担当別)
庶務 : 東山禎夫、南谷靖史、杉本俊之、横山道央
講演会場 : 松下浩一、八塚京子、高野勝美、有馬ボシールアハンマド
特別講演 : 中島健介、奥山澄雄、原田知親
展示会・広告 : 足立和成、小山明夫(山吉、沓澤、堺、高橋)
懇親会 : 湯浅哲也、山田博信
アルバイト : 野本弘平、平中幸雄、成田 克
会計 : 小坂哲夫、近藤和弘

※連合大会会期時に同会場で開催される会議

東北地区大学教員懇談会 : 東山禎夫 (山吉、沓澤、堺、高橋)
場所 : 百周年記念会館

電気学会東北支部支所長会議 : 杉本俊之 (山吉、沓澤、堺、高橋)
場所 : 百周年記念会館

2013 年度 事業報告書（最終確認版）

● 4月25日理事会で最終版 確定

1. 概況および重点活動

未曾有の被害をもたらした東日本大震災から約3年が経過し、復興の進展と共に長きに渡った経済の停滞からの着実な回復が感じ取れるようになった。その象徴とも言える出来事として2020年のオリンピック・パラリンピック開催都市が東京に決定し、さまざまな分野の技術がこの大イベントに向けてレベルアップのターゲットを定めた感がある。情報処理技術もその一つであることは当然である。くしくも東京にて開催した第76回全国大会は1,378件の講演を得て盛会となり、情報処理技術の確かな歩みを示す好機となった。

喜連川新会長の新たなビジョンの元に、学会の最大の長期的課題である会員数減少に対して実施した、学生無料トライアル制度をはじめとする若手会員増の施策や、正会員減を食い止めるための地道な施策が奏功し、会員数は21年ぶりに増加に転じ、前年比299名増となった。財政的にも2013年度は黒字決算であった。

学会活動のよりいっそうの活性化を狙って役員制度の改革を行い「やんちゃ枠」を新設した。学会のコアである調査研究活動を着実に進める傍ら、実務家向けの活動として認定情報技術者の個人認証制度の試行を開始、2013年度中に24人の認定情報技術者が誕生した。

社会から「頼られ&相談される学会」となることを目指して、「新たな社会像と取り組むべきICTに関する課題に対する意見募集」への対応をはじめとして、国および政策に関する提言、声明の発表、パブコメへの対応などを積極的に行った。

1.1 学生・若手研究者育成のための活動および体制強化（6項、12項参照）

- ① 2013年1月に発足させた「情報処理学会 若手研究者の会（以下、若手研究者の会）」の会合を3回開催し、若手研究者の会から新会員サービスの意見を取り纏め企画政策委員会へ提案した。
また、総務省と学会との意見交換会への出席、さらには新会員サービスの一つとして提案した研究会の動画中継サービスに関しては機材を購入しサービスを開始する等、より具体的な活動を推進した。
- ② 2012年度に導入した「学生無料トライアル会員制度」について拠点校の拡充、支部への協力依頼等、より強力で推進し当初目標としていた制度適用者500名に対して、目標を上回る526名の方に本制度を活用頂いた。

1.2 調査研究活動ならびに提言活動の推進（4項参照）

- ① 学会のコアの活動として、研究会による諸活動を推進した。コンピュータサイエンス領域、情報環境領域、メディア知能情報領域の3領域に分けて、領域会議を2回ずつ開催し、研究会間での情報交換を促した。
- ② 調査研究運営委員会、政策提言委員会、若手研究者の会が連携し、
 - (a) 長期的な研究のグランドデザインやロードマップに関する議論を行った。
 - (b) 国の政策および方針に関する「サイバーセキュリティ戦略」、「パーソナルデータの利用・流通」、「新たな社会像と取り組むべきICTに関する課題」などのパブリックコメント募集に対して、各専門の研究分野と連携して積極的な提言活動を行った。
- ③ 日本学術会議の2014年度版のマスタープランへの対応として、「情報学分野夢のロードマップ」を策定し、2013年に日本学術会議に提出した。本ロードマップは関連学会の案と統合し、「理学・工学分

野における科学・夢ロードマップ2014」として、2014年8月に公開を予定している。

- ④ 個々の研究会活動を超えて、領域または調査研究全体による活動を支援するために、調査研究活動の積立資金よりプロジェクトを募集し、国際会議支援、女性研究者支援などの7件のプロジェクト総額150万円を支援した。また、複数の研究会の共催による「先進的計算基盤システムシンポジウム」や「DICOMOシンポジウム」、「MIRUシンポジウム」などを開催した。

1.3 グローバル化（8項、10項参照）

- ① 英文論文誌 Journal of Information Processing（以下、JIP）のインパクトファクタ取得について、2015年度の再申請に向けて諸対応を促進した。
- ② 研究会活動を中心に、国際会議の開催など、海外学協会との連携を推進した。多くの研究会による国際会議やワークショップが開催された。
- ③ IEEE や ACM のような国際学会が存在する中で、日本の情報処理学会のアイデンティティをどのように考えるのかという観点から、調査研究運営委員会および若手研究者の会などにおいて学会のグローバル化の議論を行った。IEEE との連携による予稿集の割引などのサービスについて検討した。

1.4 実務家・ITプロフェッショナル向け活動の強化（5項、6項参照）

- ① 高度 IT 人材の資格制度である「認定情報技術者制度」について、制度案を公表するとともに、個人を対象とする認証審査の試行を実施し、24名の認定情報技術者が誕生した。
- ② 2つの新設 IT フォーラムを立ち上げるなど、ソフトウェアジャパン、デジタルプラクティス、連続セミナー・短期集中セミナー、IT フォーラムなど、各種の実務家・ITプロフェッショナル向け活動を通じて、会員増、収入増に貢献した。
- ③ 情報処理推進機構（IPA）、情報サービス産業協会（JISA）、日本情報システム・ユーザー協会（JUAS）、電子情報技術産業協会（JEITA）、科学技術振興機構（JST）などの実務家・ITプロフェッショナルを対象とする団体との連携をさらに深め、共同イベントの開催などを推進して、会員増に貢献した。

1.5 会員サービスおよび広報の充実（8項、12項参照）

- ① 電子図書館の統合を行うとともに情報学広場の正式運用を開始した。
- ② 法人アカウントによるオンラインサービスへの移行と購読員・法人会員向け CD-ROM の廃止を実施した。
- ③ 大学向けサイトライセンスサービスを2014年4月より開始することを決定した。
- ④ 事業評価データの継続的な収集と分析・改善、会員満足度調査結果への対応を検討した。

1.6 学会運営体制の充実（12項参照）

- ① 積極的な会員獲得と退会抑制の取組を行った結果、今年度末の会員数は19,314人となり昨年度末の19,015人を299人上回った。1992年度以来、21年続いていた会員減少から会員増に転じることができた。
- ② 若手研究者の会を発足し他の委員会と合同会議を開催した。
- ③ 新世代に対応できるよう理事会推薦役員候補者選出の細則を改訂し、2014年度から長期戦略担当理事、新世代担当理事を新設する。
- ④ 学会の魅力向上・価値の向上を目指して策定した中長期計画の定期的な見直しを継続し、計画に基づいた諸施策を推進した。
- ⑤ 第三者機関であるアドバイザーボードの助言を得て、諸事業の企画および運営の改善に努めた。

2014 年度 事業計画書（最終確認版）

● 4月25日理事会で最終版 確定

1. 概況および重点活動

少子高齢化、企業内基礎研究活動の低下、IT 技術のコモディティ化や急速な技術・サービス革新、グローバル競争の激化などの外部環境の変化の中で従来型の学会運営は厳しさを増している。多くの学協会では、会員数や収入の継続的減少に悩まされている。一方で、急速な技術革新や新たなサービスの出現などにより、情報処理分野における技術イノベーションへのニーズはますます高まっており、本学会の果たすべき役割は広がっていると考えられる。

このような環境の中で、会員向けサービスを充実させ、会員数を増加させ、人と社会の幸福のためのより良い情報環境の確立に貢献し、その中で安定した黒字化運営を行うためには、中長期戦略を策定して安定成長を担保しつつ、その上で若い世代の斬新なアイデアを取り入れ、社会ニーズの変化に応じて、学会の種々の活動をタイムリーに刷新していける柔軟な運営が必須である。

本学会においても、一昨年までは、会員数が継続的に減少し、学会の活動が縮小する状況であったが、昨年度は学生会員獲得などの諸施策により、会員数の増加を果たした。ただ、これを継続させるのは昨年度以上の努力や改革が必要である。

本年度は、学会の抜本的改革の初年度と位置付け、運営体制の充実、若手アイデアの発掘と運営への活用、調査研究活動のさらなる活性化と社会への提言・情報発信、グローバル化、アカデミアおよび企業向け教育支援活動、学会情報システムのリニューアル及び会員活動のためのプラットフォーム化、会員サービスの拡充において、下記を中心とする施策を実施する。

1.1 学会運営体制の充実および財政基盤の強化（12 項参照）

急激に変化する環境の中で、学会を安定的に運営しつつ、これを発展させるためには、新しいアイデアをどんどん取り入れて、学会を柔軟に改革できる運営体制が必要である。このため、下記の施策を実施する。

- ① 若い世代の柔軟な発想を運営に反映させるために「新世代理事」を設ける。
- ② 長期的学会運営戦略を検討し、これを実現させるために「長期戦略理事」を設けるとともに、中長期戦略を策定し、これを適宜見直ししながら着実に実施する。
- ③ 会員の真のニーズをタイムリーに把握できる情報基盤の整備を推進する。
- ④ 第三者機関であるアドバイザリボードからの提言を適宜諸事業へ反映する。

1.2 学生・若手研究者育成のための活動および体制強化（12 項参照）

- ① 新世代対応理事を中心とする横串の組織「新世代対応企画委員会（仮称）」を設け、新世代（学生・若手研究者・若手技術者）の発想を学会運営に取り込む。
- ② 2012 年度に導入した「学生無料トライアル会員制度」の試行を継続し、目標を 700～1,000 名程度に拡大して、本制度を足がかりに正規学生会員への移行を促すとともに、学生育成のベースとなる拠点校の拡充にも努める。
- ③ 研究会や支部などの協力も得て、学生や若手研究者のためのイベントを企画開催する。

1.3 調査研究活動ならびに提言活動の推進（4 項、12 項参照）

- ① 学会のコアの活動として、研究会による諸活動を推進する。

- ② 調査研究運営委員会，政策提言委員会，若手研究者の会が連携し，
 - (a) 長期的な研究のグランドデザインやロードマップに関する議論の継続
 - (b) 国の政策および方針に関する各研究分野の積極的な提言活動の推進などを通じて，国および関連機関から「頼られ&相談される学会」を目指す。
- ③ 積立資金によるプロジェクトを募集し，個々の研究会活動を超えて，領域または調査研究全体による活動を支援していく。

1.4 グローバル化（4項，8項，10項参照）

- ① 英文論文誌 **Journal of Information Processing**（以下，JIP）のインパクトファクタ取得について，2015年度の再申請に向けて諸対応を促進する。CVA等のトランザクションについてもインパクトファクタの取得を目指す。
- ② 研究会活動を中心に，国際会議を積極的に主催するとともに，海外学協会との連携を推進する。
- ③ IEEEやACMのようなグローバルトップの国際学会を参考にしつつ，これらとの連携も含めた学会のグローバル運営戦略を検討し，これを実施する。

1.5 実務家・ITプロフェッショナル向け活動の強化（5項，6項参照）

- ① 高度IT人材資格制度について，個人認証制度の本格運用を開始すると共に，企業認証の制度試案を広く一般に公開して意見を求め，試行に着手する。
- ② ソフトウェアジャパン，デジタルプラクティス，連続セミナー・短期集中セミナー，ITフォーラムなどにより，実務家・ITプロフェッショナルの育成に貢献するとともに，会員増，収入増を図る。
- ③ 情報処理推進機構(IPA)，情報サービス産業協会(JISA)，日本情報システム・ユーザー協会(JUAS)，電子情報技術産業協会(JEITA)などの実務家・ITプロフェッショナルを対象とする団体との連携をさらに深め，共同イベントの開催などを推進して，会員増に貢献する。

1.6 教育活動の充実（5項参照）

初等中等教育，専門学校そして大学などにおける情報教育，および企業の技術者を対象とした教育プログラムの推進に向けて，以下の施策を実施する。

- ① 情報教育カリキュラムの策定
- ② アクレディテーション（教育期間における技術者教育プログラムの認定。JABEEからの委託）
- ③ 教員免許更新講習会の開催
- ④ 大学入試における情報科目提言，大学情報入試全国模擬試験実施，教育シンポジウム・コンテストの運営と後援。

1.7 会員サービスおよび広報の充実（12項参照）

会員サービスの向上および広報宣伝の充実のための諸施策を企画し，会員の目線で，魅力ある学会作りを目指し，必要に応じて会員制度の見直しも検討する。具体的には下記の項目を実施する。

- ① 会員サービスの向上と柔軟なサービス運営を提供するために会員の真のニーズをタイムリーに把握できる情報基盤の整備を推進する。
- ② オンライン刊行物の新しいビジネスモデルの推進，サイトライセンスなどの新しいサービス提供形態を推進する。
- ③ 電子図書館の機能充実など，会員のニーズへ対応する。
- ④ ソーシャルメディアを活用した積極的な広報活動を推進し非会員へリーチも強化する。
- ⑤ 事業評価データの継続的な収集と分析・改善，会員満足度調査結果へ対応する。